



医療法人近森会

びるっば

4

Vol.237

発行 ● 2006年3月25日

www.chikamori.com 高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

近森会の現在と、 新人に望むこと



医療法人近森会理事長
近森 正幸

近森会の歩み

早く治して早く自宅へ帰っていただくことは、病院の基本的な役割である。この当たり前のことを、近森病院は開設以来60年間医療の原点においていた。

先代が無駄で不必要な医療はやりたくない、とって1964年に救急を始めたことが、近森が「病院らしい病院」としてあり続けられる現在をつくったように思う。救急医療の現場ではどうしても障害の残る患者さんが増えてくる。いま思えば、動かして寝たきりにさせないリハビリテーションの提供は必然であった。

平成元年の近森リハビリテーション病院の開設、基準看護の導入が、近森

会にたいへん大きな変革をもたらした。こうした努力によって、寝たきりになることを防ぎ、できる限り早く退院することができるようになった。

近森病院

現在、近森病院の外来においては、病状の安定した患者さんはできるだけ地域のかかりつけの先生方に紹介している。外来は救急や紹介、専門外来に特化することで、できるだけ入院医療中心の急性期医療を展開している。地域医療連携を積極的に進めることで、地域医療支援病院の紹介率も常に80%を超えている。

チーム医療とDPCの導入

病院内ではチーム医療を進め、多職種スタッフがそれぞれの専門性を活かして、チームで患者さんの治療に当たっている。こうした活動は、リハビリテーションチームであり栄養サポートチームであり、重症病棟におけるCE(クリニカルエンジニア)を中心とした透析や人工呼吸器チーム、循環器サポートチームなどの急性期チームである。そして高齢者の急性期医療の基本である迅速確実な根本治療と、高齢者の医療を支える両輪として、栄養サポートとリハビリテーションが実践されている。

4月にはDPC(診断群分類による一日包括払い)が始まり、秋には近森会全体で電子カルテの導入が決まっている。診断群分類というものさしで、客観的な基準ができ、医療の質の向上が図れるというメリットがある。出来高払いではなく包括払いを導入することで、コスト管理が徹底されるようになり、これが日本の急性期医療の本流となると思われる。

近森リハビリテーション病院

近森リハビリテーション病院は栗原院長のもと、急性期病院との連携を深め、口のリハビリに熱心に取り組み、できるだけ早期の濃厚なリハビリテーションを提供している。住み慣れた地域に帰った障害者をサポートするのが、在宅総合ケアセンター近森の役割である。

総合心療センター近森

第二分院は近森会の医療の流れを活かし、精神科の専門病院としてできるだけ早く自宅に帰れるよう努力している。高知メンタルリハビリテーションセンターでは、精神障害者の在宅サポートを行っており、第二分院とともに、総合心療センター近森として有機的に連携し機能している。

新人に向けて

これからの若い人たちには、医師をはじめ看護師や薬剤師などの国家資格を、持ってさえいれば給料をもらえる時代ではなくなったということを肝に銘じて欲しい。

高い専門性をもちチーム医療を実践できるスタッフこそが生き残れる時代になった。楽しんで儲けるような職場は医療界から早晩消えていく運命にある。社会に出ても知識と技術の習得に努め、優しい心で患者さんに接することができる、そんな人間になってほしい。

新人の皆さんは、これからの人生の三分の一を職場で過ごすことになる。その近森という舞台を整えるのが私たち病院の仕事であり、皆さんは、この近森という舞台上で、自分自身の人生を楽しく、そして豊かに送れるよう頑張っていたいただきたい。

● 4月の歳時記 ●

アネモネ

文 ヘルパーステーションえのくち

澤本 真季

アネモネという名前は、ギリシャ語の「アネモス=風」に由来します。4月に入り、ようやく暖かな日が続くこの季節の中にも、北風の気ままな交差で寒くなる花冷えの季節でもあるのです。アネモネに恋をした北風が、彼女を抱きしめたくて風を送ったというギリシャの伝説もあるようです。あたたかな日に、ふと、寒さを感じたなら、それは北風がアネモネに愛を求めているのかもしれないですね。

画 千光士可苗



近森会「口のリハビリテーション」の取り組みのいま

人間にとって「口」の占める役割

在宅総合ケアセンター近森センター長
リハビリテーションクリニックちかもり院長 宮本 寛



診療報酬改定において 医療行為の中身が評価された部分

4月からの診療報酬改定は医療界にはたいへん厳しいもので、高知県では潰れる病院も出て来る可能性があるほどのものであるが、一方でその医療行為の中身を評価している点では注目すべきものがある。その一つが「摂食機能療法」である。「摂食機能療法」の算定がこれまで月に4回が限度であったものが、治療開始後の3カ月は毎日可能となった。

「摂食機能療法」と呼ばれる 嚥下訓練とは

「摂食機能療法」とは、摂食機能障害を有する患者に対して、医師または歯科医師の指示のもとに言語聴覚士または看護師等が行う嚥下訓練を指している。口腔ケアをして、口から食べることの大切さを重視したケアが、重要な医療行為として認められたということである。

このことは全国の口のリハビリテーションがますます進歩する一助となるだろう。「摂食機能療法」ができて15年経ってやっと格上げになった。そのきっかけの一つとなったのは、近森リハ

ビリテーション病院の栗原院長がある厚生労働省の官僚に見せた2枚の写真であった。

栗原正紀院長の写真の 果たした役割

そのうちの1枚は、近森病院のHCUで口腔ケアをしている写真であった。その写真自体は数年前のもので、看護師が口腔ケアをしている場面である。言い換えれば、近森病院の先駆的で地道な、ほとんど収益にもならない活動が、新たに良い方向への法律の改訂につながったわけである。

経管栄養の患者さんの苦痛を なんとか和らげたい

また口のリハビリテーション活動の基本の一つとして重要なものに、「かんけつ間歇的経管栄養」というものもある。経管栄養の患者さんに24時間栄養チューブを鼻から入れたままにするのではなく、三度の食事ごとに、管を入れ、栄養剤の滴下が終われば、管を抜去するという、これまた多大な労力を必要とする地道なケアである。

しかし、急性期における合併症の一つとして大きな割合を占める肺炎の予防にはきわめて効果的で、かつ、口から食べることができるように回復するためには、非常に重要なケアである。ために、管を入れたまま、何かを食べてみればすぐに分かるはずである。

地道な息の長い取り組みに 光の当たる日

近森リハビリテーション病院でも「かんけつ間歇的経管栄養」は10年近く前から行われ、全国の先駆的な病院でもすでに行われているので、いずれ「摂食機能療法」のように脚光を浴びる日が来るものと確信している。



聴診器 和服に込めた 思いあれこれ

去年の夏の浴衣から始まって、着付けの修業中です。きっかけは、お蔵入りのまま19年が経過した、結婚の際の親からの訪問着と喪服……。

おそろおそろ開けてみたら、桐の筆笥のおかげかきれいなままで、一度も着たことのない色無地と素敵な帯もあってびっくり！亡くなった叔父が結婚祝いあつらに誂えてくれたものでした。子育て、仕事と忙しい日々



ちよつとクドイかも知れませんが(笑)、横顔と、帯もついでに…… ▶



のなかすっかり忘れ去られていました。これは着なくては……と思ったころ、不思議なことに出会いがあり、着せて下さる方々が次々と登場したのです。そして着るたびに、何かしらの思いが深まり、着付け教室へと運ばれ、そこでも良い出会いが続いています。一人

で着られる日も近づいているはずですが……。

さらに、最近はアンティークの着物や古布で楽しんでいます。着物(絹)を触ったり解いたりしていると昔の人たちの思いが伝わってきて、昭和～大正～明治のみならず、江戸時代(?)までさかのぼって、思いを馳せています。時代劇の大奥から町娘の衣装にも興味津々。

そして、着物を誂えてくれた親にたいしての感謝の気持ちも改めて感じます。親が嫁ぐ子どもに持たせたもののなかにある思いがやっと、理解できるようになってきたばかりなので、まだ、しつけのついている喪服はずっとそのまましまっておきたいものです。(第二分院5階病棟 看護師長 武田直子)

恒例 職員旅行

※誌面の都合で掲載の時期が随分遅れました。

西ヨーロッパ、イベリア半島南西端に位置するポルトガル。大航海時代の面影を残す美しい丘の首都・リスボンへはふたつの班に分かれて総勢 40 名ほどが訪れた。



▲リスボンの西・ベレン地区の発見のモニュメント前で

▼パリ・ベルサイユ宮殿は鏡の間が工事中で残念でした



職員旅行定番仏パリ行き。今回は和服乙女も闊歩した(6面も参照ください)。



▲エッフェル塔。この日は現地でも久しぶりの上天気で、朝から塔に列が出来ていました



ホテル最上階バーで夜景を見ながら▶

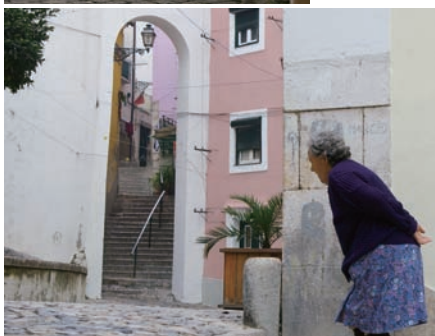
大西洋のナザレの海辺に下り立ち足裏(あうら)にやさしき砂踏みお山崎マリ

以下4枚は呼吸器外科・山本彰部長の、まるでプロカメラマンのような見事な作品から。題して『ミニ版ポルトガル写真集』

◀古都アルファマから海を望む



◀白い迷路の老婆



◀公設市場



◀シントラの宮殿前で



院外エッセイ

土佐のおきやく

東條 美紀

1948年南国市生まれ。1981年、子どもの幼稚園の保護者たちと「食の安全」に関心を持つようになり、「コープ自然派こうち(旧こだわりコープ)」の立ち上げから関わった。1986年より高知大学農学部で留学生の日本語非常勤講師。南国市国際交流協会では日本語ボランティアの手ほどきクラスなど担当している。



台風並みの土砂降り。これって春一番? みたいな強風。冷やいと思うたら雪が無いゆう。こんな行きつ戻りつを繰り返しながら、春はぐんぐん近づいてくる。

先日、「高知の春はこれやない」という『土佐のおきやく 2006』という楽しい催しが、市内の路上のあちこちや飲食店でもそれぞれがいろいろな企画をして賑やかに行なわれた。

私は幼いときから「おきやく」には好印象を持ってきた。七人家族で子どもは一人だったせいも、たくさん親戚や近所の人が集まるおきやくはことにうれしい日だった。バスガイドをしていたというおばさんの美声に「まっことええ声じゃ」と口々にいってみんな聴き入った。赤い短い塗り箸で小皿をたたいて歌う♪チャンキキおけさ。両手に小皿を2枚重ねて持ち、鳴子の如くカチャカチャと拍子を取りながら踊るおじさん。5歳ぐらいの私は美空ひばりの「花笠道中」を歌ったことを憶えている。

小豆の一粒一粒が泳いでいるげんざいのあっさりしたおいしさ。かなり

酔っぱらったあげくに茶の間で漬物をポリポリ、お茶漬けをサブサブしておじさんたちは帰るのが常だった。

翌朝も「残をしにきて!」と近所を呼び、例のさば寿司の頭やシッポを七輪であぶって「これ、これ」などと喜んでいた情景もたまに懐かしい。

さて、もうひとつ、この春特筆すべきおきやくに出会った。赤岡の絵金蔵の近くのお店にお昼ごはんを食べに行った。通された部屋に床の間があり、一段高いところに立派な内裏様が飾られていた。目を落とすと、赤い毛氈をしきつめた床の間に、三人官女をはじめ雛様全員が入り乱れて「おきやく」ならぬ「おおきやく」をしている。笛や太鼓や扇子の代わりに全員がおちょこを持って、なかには酔っぱらっておちょこを落としてバタバタしているお雛様もいる。

五段に飾らなくてもいいんだ!! ほんとに楽しそうで、土佐のひな祭りはこれ!と感じ入った。

が、残念。わが家には男の子ばかりで雛飾りが無い!

乞熱烈応援



管理職に昇格しました。応援してください。

特定集中治療室 (ICU) 工藤淑恵 看護師長

安田看護師長の異動にともない、3月1日から師長心得の辞令をいただきました。3月も10日が過ぎ、責任の重さをひしひしと感じています。先日は、「最近、顔がひきつってる」と息子に言われ、笑顔!笑顔!と自分に言いかせています。

ICUは、開設して4年半近くなり、外科系・内科系を問わず急性期の患者さんの看護をおこなっています。入退室も激しく、夜勤回数も多い勤務の中で、スタッフのチームワークの良さが私たちの誇りです。(ちょっと大げさでしょうか?)

開設のときある方から、「近森らしいICUを目指して!」と言っていただきました。近森らしいICUって?と、いつも問いかけながら取り組んでいます。今年は、呼吸療法士が3名誕生、NSTにも力を入れています。また、リハビリ部門との連携の充実などを課題にあげてきました。

まだまだ未熟な私ですが、信頼できるスタッフに支えてもらいながら前向きにがんばりますので、よろしく願いいたします。



工藤淑恵看護師長

新館5階西病棟 布美奈子 主任

3月から主任心得の辞令をいただきました。まだまだ未熟でわからないことも多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導のほどを宜しくお願い致します。

主任として自分自身、何をすべきなのか、何ができるのか、よくわかりません……。ですが、患者さんと正面から向き合い、目線を合わせ、患者さんに「近森病院を選んで良かった。近森病院に入院して良かった」と、思ってもらえるような対応をスタッフみんなまでできれば良いと思っています。各スタッフが自分らしさを忘れず、常に前向きな姿勢で精進し、新鮮な気持ちを持ち続け、また、何でも言えてフルパワーを発揮できるよう縁の下の力持ちとしてサポートできたらと考えております。そして、業務のシステム化に努め、みんなが働きやすく、より良いチーム医療を提供できるように、環境調整することができれば良いと考えています。



布美奈子主任

特定集中治療室 (CCU) 鍋島千佐 主任

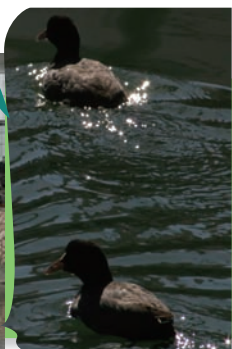
3月に主任心得となりましたが、CCUには2月に異動してきたばかりなのでまだ業務にも慣れておらず師長はじめ他のスタッフに助けをもらいながら仕事をしている毎日です。普段は気負うことなくマイペースな私ですが、今回ばかりは大変なプレッシャーを感じています。CCUは命に関わる患者さんが入室される場であり、患者さんや、家族の方の心労はとて大きいものだと思います。しかし何より命が優先される現場ゆえに医療者側の一方通行になりがちで、時として患者さんや家族の方が置き去りになるような印象を受けます。私は数年前母を亡くしましたが、その時当院ではありませんでしたがICUでお世話になりました。CCUもそうですが特異な環境ですので面会制限などがあり、もう最期だというのに思うように見ることもできず、もどかしい思いをしたものでした。今はまだ自分のことで精一杯でまだまだ余裕もありませんが、患者さんやご家族の苦痛が少しでも和らぐような病棟であるように皆と共に頑張っていきたいと思っています。



鍋島千佐主任

近森病院前
江ノ口川を
今年も元気に
訪ねてくれました

鴨の兄弟



キラリと光る看護

その25

感染ゴミ削減

近森病院看護部業務委員会と教育委員会主催によるQC活動発表会が2月24日開催され、下の表②のようにHCU病棟四名は「ごみの分別徹底による感染ゴミ削減」を報告しました。

2005年10月30日から11月30日までの31日間で、出された感染ゴミの個数とその内容を調査し、感染ゴミ1箱当たりにかかる廃棄料とHCUで1カ月にしている箱数調査を報告しました。ゴミの分別については改めて感染委員会へ確認しながら、その内容を感染ゴミ箱の設置付近に表示しました。

同時に患者さんの処置時に感染ゴミと一般ゴミが混同することを防ぐために包交車に「感染ゴミ用の袋」と「雑ゴミ袋」の準備をしました。

病棟全体に意識づけをおこなった結果、12月1日から同月31日までの調査を比較すると次の結果が得られたそうです。

対策前廃棄料：1380円×35箱＝48,300円

対策後廃棄料：1380円×18箱＝24,840円

その差：17箱の減少。23,460円。1年間の節約は281,520円です。

病院で排出されるゴミは一般廃棄物(生ゴミ)と産業廃棄物(診療行為で使用した廃棄物)に分かれ、産業廃棄物はさらに非感染性医療廃棄物と感染性医療廃棄物に分別されることになっています。「曖昧な理解」「厳密な分別は手間がかかる」ということで「業務が忙しいから」と日々を重ねていると、経済的、医療安全、環境保護などさまざまな点で齟齬が生じるので今後さらに意識づけと定着を図りたいというものでした。現場のこんな提起が患者さんの安全と細やかな看護につながるのでもっとうれしく思いました。(看護部長 梶原和歌)

津野Ns 中澤Ns 長谷川Ns



山中Ns

森崎Ns

楠Ns



仲間を募集しています

居宅介護支援事業所「ゆう」

高齢化社会にあって身体に何らかの疾病を持たれ、治療後在宅復帰された高齢者は日常生活でそれまでと違った様々な問題に直面します。

ご承知のように介護保険制度はそのような方々の在宅生活を支援して行くシステムとして施行されていますが、増大多様化するニーズに対して何度かの改変があり、4月にもこれまでの介護給付と並んで介護予防として新制度がスタートしております。

そのようななかで居宅介護支援事業所「ゆう」は、平成17年12月1日に新会社「JSDI(ジェイ・エス・ディ・アイ)」

によって設立され、現在の大川筋一丁目1の29(「まちの保健室」・近森病院研修棟1階)の場所に部屋をお借りしてスタート致しました。

ケアマネジャー1名からの小さな小さなスタートですが、「ゆう」は、退院することが在宅生活での不安のきっかけにならないように、人生もう一花咲かせませんか?というご提案を心にとめて、介護保険を上手に活かした支援を目指しています。【仲間を募集しています。よろしくお願ひします】

(居宅介護支援事業所 ゆう
管理者兼介護支援専門員
橋本 由枝)



本日は書類の説明で...

営業時間

月曜～金曜
(土・日・祝・
年末年始を除く)
9時～
17時30分

☎ 826-6131

☎で24時間連絡が取れます。
※出なくても後ほど必ずおかけします。お気軽に電話ください。

皆さん、はじめまして。徳島市生まれで公立高校卒業後、神戸へ。そこで知り合った人(もちろん今の夫です!)のふるさと高知へ嫁いで、はや18年。高校3年の娘と中学3年の息子がいます。もうそろそろ働こうかと思っていたところに介護保険ができ、この世界に飛び込み、介護福祉士の資格を取ったり、介護支援専門員の資格を取ったりして8年働いてきま

した。介護支援専門員の仕事は介護保険を使ってご本人に自立してもらう計画を立てることです。介護保険を使おうとする方のサポートをします。その要支援や要介護といった介護認定をもらったなら、ご相談ください。介護認定ってどうやってもらうの?介護保険料を払っているのに医療保険みたいにくすぐ使えない?などのご相談も受け付けています。(橋本 由枝)

QC活動発表会の発表者と演題

- ※当日発表
- ①動脈ライン挿入マニュアルの見直し
(外来/中澤布美 安光恵美 笹岡美穂 田中眞貴子)
 - ②「ごみの分別による感染ゴミ削減」
(HCU病棟/永森ひとみ 澤田実佳 山中恵 津野千鶴)
 - ③勤務体制変更を振り返って
(新館3東病棟/浅藤智恵 森崎朋菜 松本麻理)
 - ④心臓カテーテル検査オリエンテーションの実際
～ビデオを使用している説明～(新館4西病棟/佐野真弓 中澤由香 森晶世)
 - ⑤入院受け入れを見直して
(新館5東病棟/小松智華 一楽美和 片岡由美 長谷川章子)
 - ⑥目印シールの作成
～蓄尿・尿側・転倒リスク患者のスタッフ間での情報共有を目指して
(新館6西病棟/横山智恵子 矢野晶子 平田絢子)
 - ⑦透析患者が予定心エコー検査を問題無くスムーズに受ける事ができる
(透析室/楠享子 西村剛)

薬用酒アラカルト⑰

リンゴ酒

今回はあま〜い蜜をたっぷり含んだリンゴのお酒にチャレンジしてみました。

<材料>

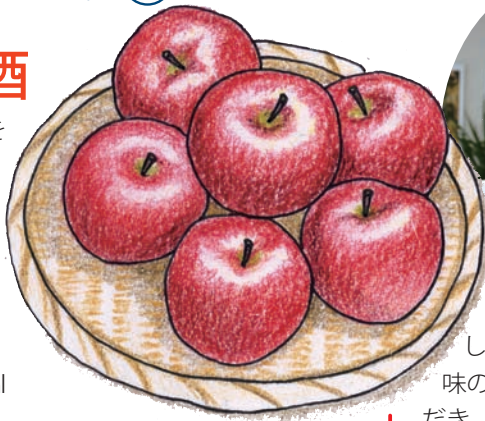
(密閉容器 1L分)

リンゴ…350 g

ホワイトリカー…650ml

<作り方>

①リンゴはていねいに水洗いし、水気をふきとる。②皮付きのまま適当に切り、芯、種子もそのまま容器に入れて、ホワイトリカーを注ぐ。③1ヶ月ぐらいで飲めるようになるが、熟成期間が長いとさらにおいしくなる。



文と画 嶋崎ユリカ

※リンゴ酒には果糖、ブドウ糖、ショ糖などの他、多くの有機酸が含まれており、疲労回復に効果があるといわれています。漬けてから約1ヵ月後の、『ひろっぱ』編集委員による試飲会では、「ふたを開けた瞬間の香りがよい」、「蜜の自然な甘さがおいしい」などの感想をいただきました。「もう少し、酸味のある品種で漬けてもおいしそう」との意見もいただき、今度、試してみようと思います。ロックで天然の甘さを楽しんだり、トニックや炭酸水で割ったり、さらにレモン汁を加えてさわやかに。琥珀色なあまい蜜のお酒、食前酒としてまた食後酒としてもいかがでしょうか？



皆さんニコニコと、ほんとに楽しそうに歌ってくださいそうだ

在宅総合ケアセンター
近森4階
「いごっぱち」で
隔週水曜日に

弾き語りボランティア



BOUTIQUE Kiyoko
の恭代さん

リレーエッセイ

憧れの都 巴里

近森リハ病院
理学療法士 岡 雅代

今年一月に職員旅行でパリに行ってきました。私は昔から絵やお城・寺院が大好きで、パリといえば「芸術の都」「花の都」と言われ、私にとっては「いつか絶対行ってやる!!」というくらい、憧れの街でした。

そのパリが、旅行の案内文書の行き先に載っていた時は、地に足がつかず、本当に嬉しかった思いがあります。パリでは、とにかく観光！観光！でした。ルーヴル美術館や凱旋門、シャンゼリゼ通り、モン・サン・ミッシェル（修道院）、そしてなんととってもベルサイユ宮殿とその別宮。フランスの王族やナポレオンも過ごし、フランス革命の時にも舞台となった場所を見てきたくてたまりませんでした。「ここでルイ14世が寝よったがや」「ここでマリー・アントワネットが革命の時にお辞儀したがや」と感激しきりでした。街並みをただ散歩するだけでも楽しい気分させてくれる街でした。帰りの



就職一年目とはまた色々違った年になりました。今年は就職してはや三年目。時の経つのは本当に早いものです。初心を忘れず、この一年をがんばっていきたいと思います。

飛行機では牡蠣にあたったのか周りの方にご迷惑をかけてしまいました。今となっては良い思い出になっています。

寒い冬も終わり、暖かい春四月。異動があったり、新しく就職された方がいらったりと出会いの季節です。これからお花見もあると思います。どうぞ宜しくお願いします。去年は

大勢の前で発表会形式にするのではなく、「息遣いが聞こえるほどの距離の弾き語りがいいみたい」。そんな思いを、父上の介護の経験以来ずっと温めてきたという安藤恭代さんの、プロ級弾き語りボランティアが、いごっぱちで始まった。

「演歌以外なら何でも大丈夫」という恭代さんのレパートリーは幅広い。「きょうの日はさようなら」「わかっているよ、ジェレボア・ジェレボア」「サマータイム」から、加藤登紀子や越路吹雪、若者に人気のこの頃のアップテンポなものまで、恐らく数百曲以上になるだろう。

聴衆の皆さんは歌詞カードの拡大コピーを見ながら恭代さんといっしょに声を出し、一曲終われば思い出話に花を咲かせる。「まるで本物の歌手みたい」と、時にはお褒めの言葉を恭代さんにかけてたりして、居心地のよくなった空間をしっかりと堪能しているようだ。

童謡は完全に皆さん憶えているらしく、いっしょに歌う声にもひと際ハリが出るそうで、「もう、昔っから歌が大好きだったから…」という恭代さんにとっても、楽しい癒しの時間になっている。

ギター伴奏で艶たっぷり、恭代の弾き語りは一度聴くと、きっとクセになる！

ベースはやっぱり、 きっぱり体育会系

近森会の出版物に出入りの業者が載るなどということは、「本来ならどうしても遠慮すべきことなのだ!」と、久保さんはこのことが何とも気にかかって仕方がないようだ。

そもそも「表舞台はタイプじゃないし、大勢も得意ではない。知らん人のなかに居るのも大の苦手」だと強調されるが、発想はきっぱり「体育会系」。数十年吸い続けたタバコを5年前ピタッと止めたのは「気合いと根性!」「決めたら守る、ゼツタイ守る!」心意気だと、じつに明快だし、こういう思い込んだらまっしぐらの発想と、「表舞台が苦手」とはどうも繋がりにくいようだが……。

草創期の山元文具店、当時社員は五人ほどだった。創業から50年、久保さんが入社してからちょうど40年になる現在、従業員は7倍近くに増えた。「たまたま会社が大きくなる時期に居らしてもらえた。まだ、昔を振り返るトシではないが……」と断りつつ、気がかりはやはりこの5年で180度変わった業界のこれからだ。

IT分野の比重が増え、社員には電子ファイリングの資格が必

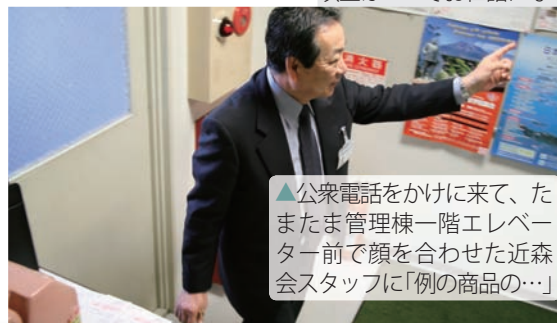
須の時代になった。IT関連の質問をされて即答できない場合があっても「抽出しはいっぱい持ちゅうつもりでやってきた」。それでも、「これからは抽出しだけでは不十分」で、そこに仕事の苦勞も楽しさも、やり甲斐も詰まっているというわけだ。

マニュアル化時代といわれて久しいが、マニュアルだけでは役立たない。つまり、そこにこそ久保さんの出番があるということなのだろうが、仕事では先へ先へと読んで心配し悩むこともしばしばありそうだ。

趣味は野球。



▲「仕事の全てという言い過ぎかも知れませんが、8割以上はここでお世話になってますからやっぱり用度課の皆さん」ということで…



▲公共電話をかけた来て、たまたま管理棟一階エレベーター前で顔を合わせた近森会スタッフに「例の商品の…」

▼「プライベートで一番大事なものは迷わずお孫ちゃん! 1歳4ヵ月になる向日葵ちゃんとお孫ちゃん!」



ご自身もされるし、流行の「おっかけ」は、銀行勤めの息子さんが成長するまでずっと楽しんできた。息子さんはプロ野球の某有名選手と共に闘っていたし、奥様はといえば若い頃は国体選手でいまもってスポーツ大好き一家なのだが、「上

手なのは身内であって、自分のことじゃないから」と、周辺取材で得た情報以上には何も聞き出せなかった。

ところで年に一、二度、一人旅に出るというのも大きい趣味だ。コースをき

ちんとは決めず、新潟でお泊まりの予定を急遽松本城を見て、という気ままさかタマラナイようす。最近の大ヒットは山全体が国の史跡に指定されている標高900メートルの鳥取県三徳山の中腹、断崖絶壁に建つ国宝投入堂。ナマで一見見たいとヘトヘトになってやっと辿り着く爽快感が忘れられない。そのあとはのんびり温泉に浸かって疲れを取る。アルコールがとても弱いからノドの渴きはお茶で収める。ぜんざいと水羊羹が好物で、会社の焼肉パーティーでもデザートにチョコパフェを頼み、周りに気持ち悪がられる愛嬌も持ち合わせている。

昭和21年12月21日未明に起きた南海大地震の津波を避けて、生まれて三ヵ月のとき母親に背負われて宇佐の北の山に逃げた。田舎で「ガキ大将の次」の位置付けで過ごした少年時代、いまもって大将ではなく「参謀」が自分の居心地のいいところと決めておられるようだ。とても控えめで、いっさい出過ぎず、それでいてスルリと自分の持っていきたい方向にカジをとる運転術は、いったいどこでどうやって学ばれたのだろうか。

好物を呑むときは大人も子どもも……

CCU

岡本 豊

この写真はある日の夕方ひと時です。僕に抱かれているのは4ヵ月になる愛娘ですが、やはり気分

によっては大泣きしてしまいます。あやしてもダメなときはやっぱりお乳が一番

なようです。なかなかあやすのも難しいものです(汗)。いっぽう僕の方はと

いうと…やっぱりビールですね。赤ちゃんも大人も好物を呑んでいる時の感覚は同じでしょう! この後は言うまでもなく僕も娘も「おやすみなさい!」となります(笑)。

勤務上、毎日こんなことができるわけではないですが楽しみの一つとなっています。しかしお酒の呑みすぎには気をつけなければ。

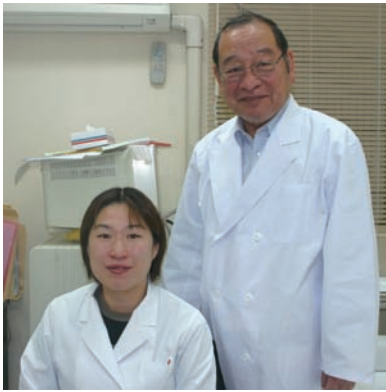


わたしの
この一枚



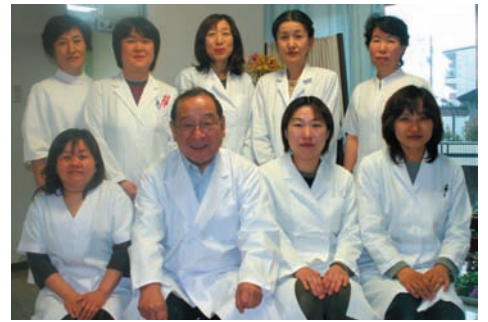
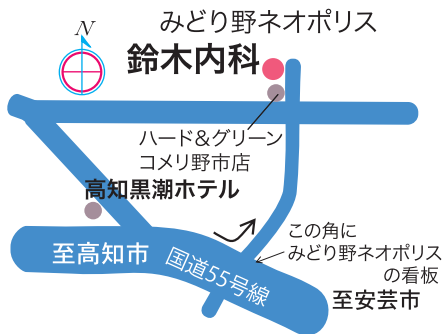
シリーズ●クリニック探訪16 鈴木内科

香南市野市町みどり野一丁目 64 tel.0887-55-3030



▲向かって左に Dr. 中山富美 (内科) / S46.12.3 高知市生まれ。趣味は読書とお酒。
向かって右に院長・鈴木常夫 / S15.2.26 高知市生まれ。趣味は愛犬諭吉の世話とお酒。

プライマリーケアを主体として、医療連携が必要な患者さんについては、適格に適切な時期にお願いする方針で、日々、地域のかかりつけ医としてがんばっております。



診療科目 ● 内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、神経内科、小児科
診療時間 ● 午前 9:00~12:30
午後 2:00~5:30
休 診 ● 日曜、祝日、12 / 31 ~ 1 / 3

2月の診療数

近森会 外来患者数	18,376 人
近森会新入院患者数	818 人
近森会 退院患者数	797 人
地域医療支援病院紹介率	89.05 %
近森病院平均在院日数	14.07 日
近森会 平均在院日数	21.89 日
近森病院救急車搬入件数	403 件
うち入院件数	201 件
手術件数 (手術室での)	262 件
うち全身麻酔件数	132 件

企画情報室

図書室便り

(近森病院・2月受入分)

- ・まるわかり!看護基準 作成・運用・活用の仕方 / 国立大学法人 信州大学医学部附属病院 看護部 (監修)
- ・なぜ?がわかる看護技術 LESSON / 大岡良枝 (他編集)
- ・イラストでわかる基礎看護技術 ひとりで学べる方法とポイント / 石井範子 (他編集)
- ・パーフェクト看護技術マニュアル 実践力向上をめざして / 種池礼子 (他編集)
- ・看護基準書・手順書 / 山崎 絆 (監修)
- ・看護管理としての看護情報システムの構築と運用 / 五島光子
- ・第36回日本看護学会論文集 (老年看護・小児看護) / (社) 日本看護協会 (編集)
- 《別冊・増刊号》
- ・別冊 医学のあゆみ ユビキチン研究の新展開 -メカニズムから疾患研究へ- / 田中啓二 (編集)
- ・別冊 医学のあゆみ アトピー性皮膚炎 / 竹原和彦 (編集)
- ・別冊 NHK きょうの健康 肝炎・肝硬変・肝がん 治療法はここまで進んだ! / 石川達也
- ・臨床精神医学 2005 年増刊号 精神科医療のリスクマネジメント / 臨床精神医学編集委員会 (編集)
- 《ビデオ・DVD》
- ・VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery vol.14 No.1 / 日本脳神経外科学会 (企画・監修)

(近森リハ病院・1月受入分)

- ・リハビリテーション MOOK / 言語障害・摂食嚥下障害とリハビリテーション 12 / 編集主幹 千葉直一 安藤徳彦
- ・リハビリテーション MOOK / 高齢者のリハビリテーション 13 / 編集主幹 千葉直一 安藤徳彦
- ・動画でわかる 摂食・嚥下リハビリテーション / 藤島一郎 柴本 勇
- ・実用 介護事典 / 大田仁史 三好春樹



編集室通信

▼昨年5月に『ひろっぱ』がカラー版となって1年が経とうとしています。1年分を見直してみるとモノクロでは見えなかった季節感や色合い、人物がリアルに映し出されていきました。歳時記の画は繊細できれい

- に色付けされていて作品展が開けそうな
- 出来映えだし、旅行や人物ルポ、エッセイ
- でも写真から伝わる情報量は格段に増えて
- 人物以外の背景からも想像力を刺激してくれました。輝いている人はカラーで見ると一段といいですね。(和)